

成田市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体第1回会議 議事録

1 開催日時

平成29年2月2日（木） 午後2時から午後4時

2 開催場所

成田市保健福祉館会議室1・2

3 出席者

（委員）

西田委員、小林委員、佐藤委員、大木委員、西村委員、一色委員、渡邊委員、石井委員、飛田委員、小山委員、杳掛委員、山根委員、北村委員以上13名
（欠席：高橋委員、野平委員（佐藤氏代理出席）以上2名）

（事務局）

高橋福祉部長

三橋介護保険課長

加瀬林高齢者福祉課長、平岡係長、渡未主査、松村主事

小野生活支援コーディネーター

4 会議次第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 福祉部長あいさつ
- 4 委員・事務局自己紹介
- 5 委員長・副委員長選出
- 6 議事
 - (1) 生活支援体制整備事業の概要とスケジュール
 - (2) 生活支援コーディネーターの取り組みと今後のスケジュール
- 7 講演「生活支援サービス創出の必要性和協議体の役割」
- 8 その他（次回の開催）
- 9 閉会

●進行 事務局

●福祉部長あいさつ

2025年、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になる8年後が問題とされている。長生きは喜ばしいことだが、年金・医療・介護等の社会保障費の増大、負担が問題となっている。一律1割負担だったものが高所得者は2割負担になり、家事支援サービスの介護サービスからの分離、高額介護サービスの見直し

等国が検討している。家族の負担でなく社会全体で支える社会保障制度の先行きが怪しくなっている。

成田市の現状について。高齢者 2 万 8000 人。高齢化率は国、県と比べ低いものの、のんびりとはしてられない。成田市において一人暮らしの高齢者は 1500 人、高齢者だけの世帯は 4500 世帯、要支援・要介護認定者は 3900 人。

住み慣れた地域で安心して暮らせるよう市では様々な取組を行っている。いきいき百歳体操はここ 2 年 13 か所まで拡大している。新年度は公園の健康遊具を使った介護予防事業を予定している。

地域包括ケアシステムでは、市民の方が年を重ねても住み慣れた地域で、医療・福祉・介護等、一体的に支援を要する高齢者を支える仕組みづくりをしていく。

委員のみなさまには、日々の業務や豊富な経験からご意見をいただきたい。委員のみなさまのネットワーク、力を生かし、地域で安心して暮らせる仕組みの構築にご協力いただきたい。

●委員自己紹介

●委員

国際医療福祉大学教授。大学は地域に根差した、医療に貢献できる人材の育成をしている。学生が千葉、成田市に就職し、社会貢献ができればと思う。

●委員

成田市社会福祉協議会副会長。知的障がい者施設のしもふさ学園施設長。廃校の小学校を借りて通所施設を開設した。知的障害の方を受け入れるだけでなく地域福祉の役に立つようにできればと思う。

●委員

成田市民生委員児童委員協議会会長。昨年 12 月に会長職に就いた。地域の人に信頼されるように活動している。

●委員

ボランティア連絡協議会会長。93 前後の団体がある。20 数年続けていた活動が難しくなることがある。年に 4~5 グループが新しくできたりなくなったりしている。ボランティアがどうやって続けていけるかが課題。

●委員

健康ボランティア会長。施設に赴いて元気なところを見せる。毎月 1 回地区に分かれて健康体操、手芸等、各地区で趣向を凝らして活動している。

●委員

成田市区長会会長。現在、成田市は 300 近い区・自治会がある。各地域の区長さんが地域と密着して活動を行う。

●委員

高齢者クラブ連合会に所属している。よろしく申し上げます。

●委員

シルバー人材センター職員。みんなの意見を聞いて勉強していきたい。

●委員

成田市ヘルパー連絡会会長。平成 29 年度は新しい会長が参加する。94 事業所が参加。年 2 回勉強会をしている。

●委員

成田市ケアマネジャー連絡会会長。成田市、酒々井、栄町等会員 150 名。年に 3~4 回研修会を行う。介護事情を考慮しテーマを設ける。

●委員

成田市介護保険事業者連絡協議会監事。2025 年問題で介護職員の不足が問題となっているが、成田市は採用しやすい環境にあると思う。みなさんと一緒に地域づくりをしていきたい。

●委員

社会福祉法人生活クラブ風の村デイサービスセンター所長。人材は、成田はなんとかなっていると思う。介護職員について、危機感を持って、初任者研修などハローワーク任せにせず育成をしている。

●委員

西部北地域包括支援センター管理者。八生、豊住、ニュータウン地区を担当。何かあったとき介護サービスだけでは難しいため、医療、近所の方、行政、民生委員と協力していく必要がある。現在は個別の会議を積極的に行う。

●事務局自己紹介

●委員長選任

委員より委員長、副委員長の推薦あり。

いろんな地域で活動されている委員の方の力を借りて、顔の見える、意見の

言い合える協議体にしてきたいと委員長より挨拶あり。委員長を応援しながら、頑張っていくと、副委員長より挨拶。

●委員

会議設置要綱について。本会議は公開となっている。今回については傍聴の申し出はなし。第6条3項により、出席者の過半数が会議の成立、本日、委員総数15名中13名出席により会議成立。次に、生活支援体制整備事業の概要とスケジュールについて事務局より説明をお願いします。

●生活支援体制整備事業の概要とスケジュール（高齢者福祉課長）

資料1「生活支援体制整備事業の概要」について説明。介護保険制度の改正により、新しい介護予防・日常生活支援総合事業が新設され、要支援者1.2の認定を受けた方が利用する予防給付が総合事業に移行され、成田市においては平成28年10月から行っている。今後は、有資格者が行っていた内容について、基準の緩和を行い、買い物、ゴミ出し、洗濯物の取り入れ、日常のちょっとした困り事を住民主体で行う。地域の支えあいの形を協議体と生活支援コーディネーターで作っていく。

生活支援コーディネーターの役割として、地域にあるサービスや逆に不足しているサービスの把握、担い手の養成がある。協議体の目的と役割として、地域の問題の把握や地域づくり、サービスの開発に向けた活動。それらの実現には様々な主体に参加してもらう必要がある。また、高齢者の社会参加も求められる。元気な高齢者の方に生活支援の担い手になってもらう。それが元気な高齢者の方の介護予防にも繋がる。

地域の支え合いの創出に向けた取り組みとして居場所づくりがある。地域で行っている介護予防活動の紹介を行う。なりたいいきいき百歳体操は、歩いて行ける場所で近所の仲間同士で体操を行う。現在、約160名の方が参加している。健康増進課主管の健康ボランティア、高齢者福祉課が調査し把握した資源調査把握マップを紹介する。

資料2「生活支援コーディネーターの業務委託の概要」と資料3「生活支援体制整備事業及び協議体の今後のスケジュール」について説明。

●委員

内容が盛りだくさんだが、今の段階で聞いておきたいものはあるか、情報、課題の共有の場でもあるので、個々の活動の課題等も挙げてもらいたい。

●委員

行政の指導的立場というのは分かった。行政のどの部分をどこが担当するのかが分かりにくいと感じる。情報共有ができればいいのではと思う。

●委員

現在は高齢者中心の組織体制で進んでいるかと思うが、まちづくりとなると、子供や障がい者も幅広くなる。行政の組織体制としてはどうなっているのか。

○事務局

実際には子ども、障がい、高齢者といろんな部署に分かれている。高齢者の社会参加だが、最終的には地域づくり、全住民を対象としてできればと考えている。関係部署にも働きかけていきたいと考える。

●委員

ロードマップで4つの項目が挙げられているが、この2年間でどこを目標にするか、具体的などころが決まってくると、必要な部署がどこか、と決まっていくかと思う。具体的な目標というのはあるのか。

○事務局

目標を設定するための情報共有もあるかと思う。生活支援コーディネーターを中心に内容について進めていければと考えている。

●委員

ボランティアをやられていて困ったことや、継続していくために難しいことは？

●委員

あおぞら会は20年近く経っているが、ボランティアの人自体も高齢になっている。80歳の方などもいて、受け手にしてほしいという話もある。また、集まる際の足の問題がある。部屋の中での活動はできても、会場まで行くのに足がない。市内5つの地区。もっと細かく分けてできればいいが難しい。

●委員

依頼が多いものは？

●委員

シルバー人材センターでは清掃が多い。

●委員

ケアマネジャーの方にそういう相談はあるのか。

●委員

ボランティアセンターに相談したりする。介護保険の中では縛りがあったりする。他にも、訪問介護事業所が介護保険外で「まごの手」といった介護保険以外の部分をやってくれるようなところがある。

●委員

調整に走る、いろんな事業所を知っておく必要がある。

●委員

ヘルパーはできることとできないことある。利用者よりこういったことをしてほしいと希望がある。介護保険外のものを有料でやることもある。

●委員

隣人に頼むようなことはあるのか？

●委員

橋賀台一丁目にある「橋一ちょぼら隊」というグループで、無料でお手伝いをしてくれるようなグループもある。

●委員

地域包括支援センターなどがここ数年の中で浸透し、民生委員、包括、ケアマネジャーとネットワークが広がったように思う。

●委員

自治会に入らない世帯も多い。そういった世帯が増えている中で何か取り組みはしているか？

●委員

未加入の人が成田市では 6 割と言われている。地域差がある。区長会の中でどうすればいいか話し合っている。助け合い、声掛け等いろんな組織が努力しているのは分かるが実際問題としては難しい。

●委員

昼間に若い人が全くいないという地域もある。地域の格差というのも頭に入れて進めていければいいのではないかと思う。

●委員

目的に向かうため、土台を作り上げていく必要がある。

●委員

手の届く範囲から進めていくのが大事かと思う。郵便配達で声掛けがあったりするのか？

●委員

市との締結はあるが、細かく声掛けはできていないのが実情。

●委員

ノルマがある仕事の中で声掛けをするのは難しい。現実を話し合うことで先に進める。

●委員

現状、理念も含めて話せばいいのではないか。

●委員

実情自治会自体がない、というところもある。担当地域包括が管轄しているところでもそういった実情がある。民生委員の決定には本来自治会の推薦があるが、自治会がないため民生委員推薦がなく空欄になってしまう。

●委員

ゴミ箱を設置したい、道路を整備したいと自治会をつくり、補助金をもらい解散してしまう自治会がある。

●委員

いろんな地域のまちづくりがあると思う。地域の繋がりも含め、生活支援コーディネーターの取り組みと今後のスケジュールについて第二号の報告を生活支援コーディネーターよりお願いします。

●生活支援コーディネーターの取り組みと今後のスケジュール

(生活支援コーディネーターより)

生活支援コーディネーターの活動として全住民を対象とする。仕事のひとつに社会資源の開発がある。社会資源として、「ひと・もの・かね」がある。生活支援コーディネーターは人を対象にした仕事をしていく。誰にでも何かしらの役割が地域の中であるはず。世代間交流をし、お互いの理解を深め、役割を見つけていくのがポイント。初期は一般介護予防から進めていく。介護予防を希望するグループの立ち上げの支援。時間をかけながら住民主体の事業に移行できればと考えている。現在公的な機関・場所でやっているサークルをまとめた

ものの紹介について。現在作成中。今後は地域の集会所等、公的な場所以外でやっているサークルの把握について、どこで何をやっているか調べマップにしていきたい。協議体の方から情報を集めたい。

地域で何かやりたい人はいる。その人を見つける。やりたい人がやれる環境の整備が求められる。進めていくには時間がかかると思う。今年度についてはまず社会資源の把握を行う。

●委員

協議体委員での情報共有、全体について何かありますか。

●委員

地域包括ケアを法人でどう考えていくか。自宅から出られない（足がない）人が多い。孤立化を防ぐ取組をしていく。八生地区において月1回民生委員がチラシを配っている。介護保険以外の方（地域包括や民生委員が気になっている人）にチラシを渡したり、風の村サロンを開催している。足が一番重要なので、事業者が送迎を行っている。月1回3時間のサロン。最初は体操だけだったが、料理したりするようになり、最初の3回くらいは人が集まらなかったが、来た人が人を新たに呼んで人が増えた。事業所職員抜きでも参加者が自主的にやっていくようになれば、と進めている。

●委員

相談する人が今までいなかったが、介護相談所とわかりやすい看板をつけ、地域の人達が気軽に相談できるように工夫した。

●委員

第1回目協議体として、いろんな意見をいただけた。課題も多く、それぞれの思いも強い。どこに着地点をもっていくかがこの協議体で求められていることかと思う。情報の共有だけでなく、次のステップ、活動へ繋げていけるよう、準備を進めていきたい。

●講演 テーマ「生活支援サービス創出の必要性と協議体の役割」

協議体について、第1層として大枠が立ち上がったが、第3層にどれだけ還元できるかが最終的には重要になる。委員の方にそれぞれの立場でどういうことができるかを考えていただきたい。

介護保険のサービスについて、現在では内容で満足させるために、事業所が質と量の両方を考え行き、効果としてどうなのか示していく必要がある。活動量が多い人ほど健康寿命が長く、役割が多い、(精神的成熟) 幸福感が高い、と

データで示されている。どれだけ動いてもらうかが必要。動いてもらうことで役割の質も増す。

脳卒中の再発データについて。もともと病気にならないようにすることに加え、再発の予防が課題。健康寿命を阻害するものとして、日本では脳卒中が多い。活動量を上げることが再発の予防に繋がる。

老化をどう捉えるかについて。高齢者と赤ちゃんの歩き方は同じで、転びやすい歩き方。正常な加齢は知的な部分が成熟。老化の捉え方、視点を考えていく必要もある。

介護認定において。呼吸、循環器系等、内部疾患単独で高い要介護度が付くのは難しい。休めばできてしまうことがあるため。パッと見て元気そうでもそれは本当なのか。一部分だけ切り取るのではなく、見守っていく、見える環境が必要。

活動時間の調査について。施設にきた時から 1 分単位で調査。全利用時間休憩時間（何もしていない時間）がどれくらいあるかの調査で、要支援 1 の人は 31 分。要介護 4.5 の方で 30～40 分。はたして要支援と要介護の人の休憩は同じ質なのか。サービスの提供の仕方を考える材料になる。

要介護度別 BMI について。介護度が上がるにつれて痩せの割合上がる。このデータから、栄養状態が悪いといった判断になるかと思うが、見方を変えると BMI が低いから、痩せているから要介護高くても長く生きられるのかもしれない。一元的でなく、見方を変えると、悪いと思われているものも良いものになるかもしれない。違った解釈になるかもしれない。価値観の共有、柔軟な考えがまちづくりにも活かされるのではないか。

成田市がどこに進んでいくか、どこと協力していくのか、第 1 層で考えていく必要がある。

○事務局

今回は 5 月の開催を予定

内容について、各団体の活動を紹介してもらう

詳細は改めて案内する